

## 今月の紙面

- ・繁盛店の主に聞いてみたい
- ・情報ステーション
- ・ボランティア

## 繁盛店の主に聞いてみたい



大分先端画像診断センター

センター長 友成 健一郎 様

今回は、高度先端医療装置で質の高い検査・診断を行っている 大分先端画像診断センター センター長 友成 健一郎 様にお話を伺いました。

### ■事業を始めたきっかけ、経緯は？

ひとことで言うと、放射線科医が外来を診る画像診断専門病院を始めたかった、ということになります。その説明をするには、私の職業である「放射線科医」の自己紹介から始めるべきかもしれません。病院で直接会う機会が極端に少ない医師だと思います。仕事以外でお会いする方には「何科の先生ですか？」と聞かれますが、「放射線科です」とお答えするとだいたい反応は微妙です。「検査をする人ですか？」と聞き返されることもあります。

病院で CT や MRI などの画像検査を受ける場合、専門的知識を駆使して撮影を担当するのが、国家試験に合格した医療技術者である診療放射線技師です。放射線科医のほとんどは、診療放射線技師のようにうまく撮影をすることはできません。そしてその検査結果は主治医から聞くこととなりますが、主治医はわれわれ放射線科医の作成した診断報告書を読んでから説明をしていることがほとんどです。「検査結果は1週間後に出ます」と言われるような場合は、その間に陰で放射線科医が診断をしています。

医師国家試験に合格した後、放射線被曝についてや画像診断に必要な画像解剖などについて専門のトレーニングを受け、日本医学放射線学会の画像診断専門医試験に合格した医師が、放射線科医の中でも「画像

断専門医」となります。画像診断専門医は、医療の質を陰から支えていると自負しています。多くの場合、診療放射線技師、放射線科医（画像診断専門医）、主治医に看護師を加えたこのチームの作業はうまく機能しているのですが、主治医は画像診断専門医のようにすべての画像検査に精通している訳ではありません。主治医の専門が消化器内科だとすると、同じ画像検査に写っているにもかかわらず、肺、膵臓、腎臓、子宮や卵巣、前立腺、骨、筋肉など消化器以外のことはわからない、ということはありません。例えば「お腹が痛い」という症状の原因は、消化器以外にあるのかもしれませんが。画像検査の計画は通常主治医が立てますが、放射線科医の立場からは、「この場合は CT よりも MRI の方がいいのに」「超音波検査が有効なのに」「画像検査の計画を立てる段階から放射線科医がかかわりたい」などと思うことがあります。

「主治医の検査の説明が短くてわからなかった」という話もよく聞きます。しかし、多くの受診者がお待ちの中、限られた外来診療時間の中で、専門外の画像診断や専門外の病気の説明まで主治医がひとりで行うには元々無理があります。放射線科医が画像診断専門外来を行えば、主治医との役割分担で、画像診断部門については放射線科医が担当する、ということができます。時間をかけたとしてもかけられないという主治医の代弁をしたいという想いもあります。当院の PET のように物理的に1日10名程度しか行えないという制約も逆手にとれば、説明にしっかりと時間をとり、主治医と患者の間に入って画像による「通訳」ができます。

また、高額である高度先端画像診断装置を各医療機関で導入しようとする、経営が難しくなります。不要な検査であっても、経営的判断で行ってしまうこともあるかもしれません。これを各医療機関と連携し共同利用できれば、患者にも大きなメリットがあります。実際、数年前まで PET 装置は大分県内で一台、当院にしかありませんでした。しかし医療機関との連携がうまく機能していなかったこともあって、高額装置を抱えて経営が破綻しました。大分県内で唯一の PET 装置を無くしてはいけない、というのが私が当院の運営に携わるきっかけとなり、「放射線科医が外来を診る画像診断専門病院を作りたい」という、私や仲間の放射線科医の想いも繋がって、「大分先端画像診断センター」が新たにスタートすることになったわけです。当時大分県内唯一であった 3.0 テスラ MRI や、大腸 CT（コンピュータによる仮想内視鏡）も導入し、総合的画像診断を行っています。

### ■今後の展開は？

PET とはブドウ糖によるおとり捜査でがんを見つける検査です。がんはたくさんブドウ糖を食べることがわかっているため、発信器がわりに放射能を持たせたブドウ糖を静脈注射すると、がんの部分に集まり、そこから発せられる放射線がその位置を教えてください。院内でこのにせのブドウ糖（検査薬）をつくるのにコストがかかるので PET は高額なのですが、がん診療にはとても有効な検査です。但し装置の特性上、あまり「視力」が良くなく、小さながん、例えば2ミリの乳癌などは見えません。でも近づいて見ればよく見える、というわけで、最近乳房専用の PET 装置もあります。このような最新機器の導入を計画していきます。PET によるがん検診は現在も行っていますが、その精度を上げていきたいと思っています。PET をがん検診に使うのは賛否両論があります。他の検診の発見率が0.05%や0.1%であるのに対し PET では1%と優秀であることから検診に使われるようになりましたが、1%の中には見つけなくてもよかったおとなしい癌もあります。当然見つからないがんもあります。MRI など他の検査も組み合わせ、画像診断専門医が運営しているからその精度の高いがん検診を行っていきます。海外からも当院の診断を受けたいという方が来られます。装置の共同利用と捉え、経営を安定させ新たな装置の導入につなげるためにも、今後も「医療観光」はお受けしていきます。

### ■経営理念や哲学を教えてください。

必要な検査を必要な方に行き結果が伴えばいいと思っています。しっかりと「プロ」の仕事をしてあげれば、画像診断の需要はあるので結果は必ずついてきます。診断の質を上げるためにも文献で学び、学会で新しい知識を得るなど、勉強を続けていきます。

スタッフには「患者様」という呼び方を禁止しています。「患っている者」に「様」を付けるのはそもそも日本語としておかしいのですが、机上で考えられ口先でマニュアル的に発せられる「様」に何の意味もない、むしろ失礼だと考えます。感情的かもしれませんが、感情と医学的論理のバランスをとった診療を心がけています。

### ■人材育成についてどのようにお考えでしょうか？

#### また、そのためにされていることは？

とにかく「プロ」意識です。撮影に関しては装置の自動化も進んでいますが、こだわりを持って撮る画像は全然違います。医療スタッフ全員での勉強会は月に1回行っています。学会参加も推奨しています。「大分先端画像診断センターで撮った画像ならしっかり撮れているはず」と言われる様に、こだわりをもってもらいます。当院の受診者の7割は「がん」と診断されて来院します。当然不安や緊張が強いはずですが、その気持ちを少しでも和らげることができれば、それだけでも検査精度は向上します。技術だけではなく、ここでも感情を大事にしたいと思っています。

### ■最後に繁盛店になる為には？

検査の数が少なくても経営が成り立たなければ、いく

ら質の高い検査をしても存続できません。繁盛、というと少しニュアンスが異なりますが、主治医、患者との信頼関係を大切に、大切に診る事、うまく「通訳」する事、これらをしっかりとっておけば、結果はついてくると思っています。

### 【会社 DATA】

大分先端画像診断センター

〒874-0023 大分県別府市上人ヶ浜9組

受付：平日8時半～17時半 休診日：日曜・祝日

TEL：0977-66-4116 FAX：0977-66-6441

## 情報ステーション

### \*新規オープンのご案内！！

株式会社 ME コーポレーション様 福岡県行橋市に「パールプラス 行橋店」OPEN！！



住所：〒824-0008 福岡県行橋市宮市町4-11

ユウホウビルY12 202号室

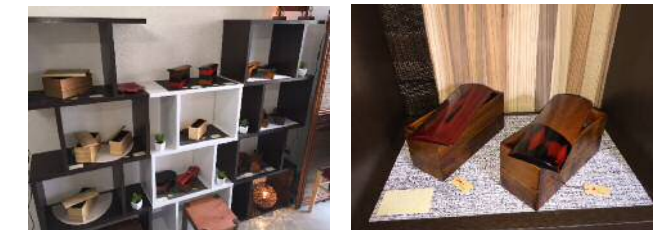
営業時間：10～17時半（最終受付17時）

月・金曜日10～19時半（最終受付19時）

※定休日：日曜日・祝日 TEL：0930-25-7277

### \*新規オープンのご案内！！

はあとふる株式会社様 日田市丸山に「クラフトギャラリー creative 琳」OPEN！！



住所：〒877-0008 大分県日田市丸山二丁目1-62

営業時間：10～18時 ※定休日：毎週水曜日

TEL：0973-28-8681 FAX：0973-28-8682

## ボランティア

当事務所では、ボランティア活動に取り組んでおります。大分国際人材育成（協）様、（株）しあわせ食創造様、（株）鳥繁産業様よりペットボトルキャップをいただきました。（株）しあわせ食創造様より使用済み切手をいただきました。お預かりした品はそれぞれに寄贈いたします。今後も使用済み切手・ベルマーク・ペットボトルキャップを集めてまいりますので御協力を宜しくお願いします。

（会社名は五十音順にて記載させていただいております）